

ネットワークアンケート ②0

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 貴院では、フットケアについての説明(情報提供)や指導はどのように行っていますか？

糖尿病の合併症のために足を切断する方は年間3千人以上。糖尿病患者の増加に伴い合併症の発症防止が重要な課題となっています。昨年4月より、糖尿病足病変の指導に対する「糖尿病合併症管理料」が新設され、フットケア指導の環境整備が進みつつあると言われています。さっそく現場の状況をうかがってみました。

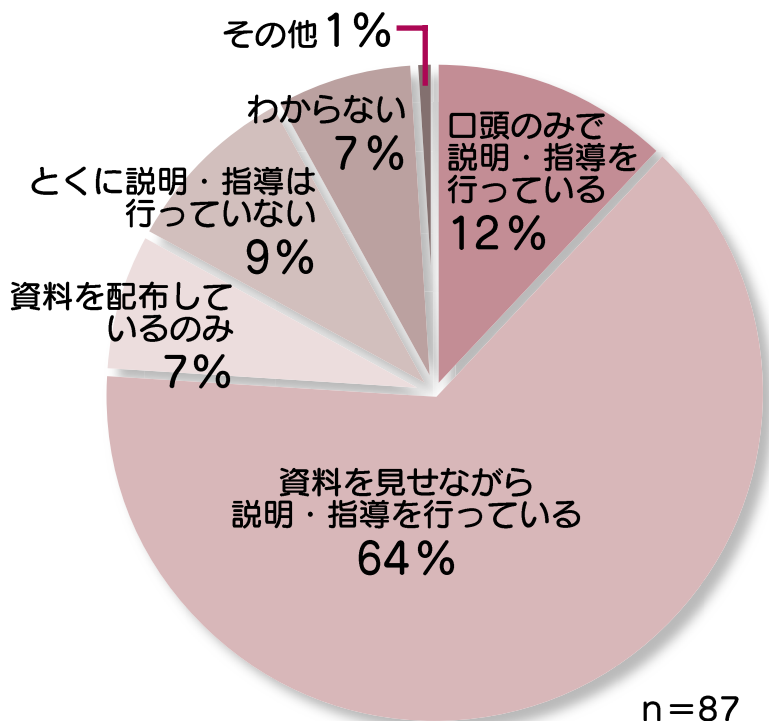
[回答数：医療スタッフ87(医師24、看護師41、管理栄養士10、薬剤師7、臨床検査技師2、保健師1、その他1。うち日本糖尿病療養指導士27)、患者さんやその家族424名(食事療法を行っている324、運動療法を行っている268、経口薬を服用している207、インスリン療法238/重複回答)]

糖尿病患者さんへのフットケアについての説明(情報提供)は、「パンフレット等の資料を見せながら説明・指導を行っている」とした方がもっとも多く64%でした。回答者の勤務先のフットケアに対する取組状況をうかがったところ、フットケアの必要な患者さんに対して「院内でケアを行っている」のは56%、「フットケア外来のある他院を紹介」している方が9%、「とくに何もしていない」とした方が21%という状況でした。さらに、昨年度から新設された「糖尿病合併症管理

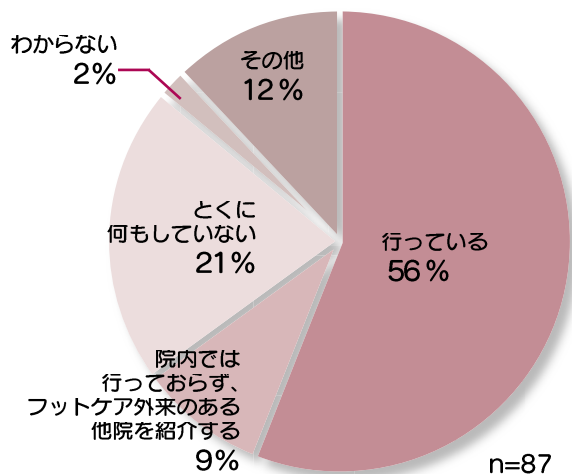
料」を算定しているのは24%で、39%はフットケアを行っていても算定は行っておらず、フットケア研修ははじめ施設基準のハードル等もあり、浸透するには時間を要する傾向が見受けられます。

また、糖尿病による足病変の患者数や発症頻度の実感では、82%が「患者数が

増えている」、54%が「患者数、発症頻度ともに増えている」との回答でした。自由記述では、「人員不足で時間と手間をかけられない」「合併症管理料の算定基準が高すぎる」「医療スタッフの関心が薄い」といった意見が寄せられました。



Q. “フットケア”の必要な患者さんに対して、院内でケアを行っていますか？



Q. フットケアの指導・管理に対して「糖尿病合併症管理料」を算定していますか？

